

平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成22年8月12日

上場会社名 株式会社ニチリョク 上場取引所 JQ  
 コード番号 7578 URL http://www.nichiryoku.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 寺村 久義 (TEL) 03-3396-3052  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役兼常務執行役員 (氏名) 矢田 欣也  
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月13日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	750	△28.4	△136	—	△157	—	△114	—
22年3月期第1四半期	1,048	10.9	94	350.2	84	562.8	45	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第1四半期	△8	66	—	—
22年3月期第1四半期	3	35	—	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
23年3月期第1四半期	10,220	3,611	3,611	3,611	35.3	273	69	
22年3月期	10,284	3,818	3,818	3,818	37.1	288	34	

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 3,611百万円 22年3月期 3,818百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
22年3月期	—	—	—	7	7	50
23年3月期	—	—	—	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	7	7	50

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成23年3月期の業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期（累計）	2,100	△14.0	180	△48.8	130	△59.5	70	△60.7	5	29
通期	4,600	△9.8	530	△39.1	430	△46.4	210	—	15	86

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

(注) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	13,741,014株	22年3月期	13,741,014株
23年3月期1Q	544,166株	22年3月期	496,166株
23年3月期1Q	13,230,881株	22年3月期1Q	13,470,370株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

(注意事項)

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期報告書のレビュー手続きを実施しています。

上記に記載した予想数値は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。上記予想数値に関する事項につきましては、[添付資料] P. 3「当四半期の業績等に関する定性的情報」（3）業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

### 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

#### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期会計期間におけるわが国経済は、国際金融危機の影響を残し、景況感の改善までには至らず、依然個人消費が低調に推移しており、景気の先行きにはなお予断を許せない状況にあります。当社の属する供養産業におきましても、死亡者が年々著しく増加しているにもかかわらず業者間格差が広がりつつあります。これに伴う同業他社との競争激化による顧客単価の下落という厳しい状況下、当社はビジネスモデルのチェンジ、即ち屋外墓地の霊園事業から、供養の全てをパックした室内陵墓事業への展開を図るとともに、愛彩花倶楽部会員獲得に積極的に取り組み、葬儀見込み顧客の囲い込みを進めましたが、景気の回復遅れと年金問題等で高齢者の将来不安は払拭されず、購買意欲は依然低調であり、当社の売上及び利益はともに前年同期に比べ大きく減少いたしました。また、当社業績の季節的特徴といたしましては、主力の霊園事業において、春秋のお彼岸時期に合わせての建立を前提とした墓石工事の受注が集中する傾向にあるため、売上計上は第1四半期、第3四半期は少なく、第2四半期、第4四半期に集中する特徴があります。

以上の結果、当第1四半期会計期間における業績は、売上高7億5千万円（前年同期比28.4%減）、営業損失1億3千6百万円（前年同期営業利益9千4百万円）、経常損失1億5千7百万円（前年同期経常利益8千4百万円）、四半期純損失1億1千4百万円（前年同期純利益4千5百万円）となりました。

#### 各事業の状況

##### <霊園事業>

従来式の屋外墓地につきましては、景気後退による影響で、比較的高価格となる屋外墓地の買い控え及び小規模傾向が続く環境下、高島平霊園第二期の完売もあり、売上高は3億1千2百万円（前年同期比30.2%減）となりました。

##### <室内陵墓事業>

室内陵墓第三号「関内陵苑（横浜市中区）」が本年4月に完売したことにより前年同期に比べ販売手数料収入が大幅減少いたしました。一方、室内陵墓第四号「覚王山陵苑（名古屋市中千種区）」は当初計画どおり順調な販売実績を上げております。売上高は1億6千3百万円（前年同期比51.4%減）となりました。

##### <葬祭事業>

愛彩花倶楽部会員数の順調な増加により、葬儀施行件数が前年同期に比べ順調に伸びましたが、葬儀の地味化傾向が一層顕著となり施行単価が下落し、売上高は前年同期に比べ微増の2億7千5百万円（前年同期比3.9%増）となりました。

#### (2) 財政状態に関する定性的情報

##### ①資産、負債及び純資産の状況

###### (流動資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べ3億9千2百万円減少し、42億1千4百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金2億9百万円、売掛金1億1百万円及び完成工事未収入金9千6百万円の減少によるものです。

###### (固定資産)

当第1四半期会計期間末における固定資産は、前事業年度末に比べ3億2千8百万円増加し、60億5百万円となりました。その主な要因は、差入保証金3億9千2百万円の増加、及び長期貸付金1億2百万円の減少によるものです。

###### (流動負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は、前事業年度末に比べ1億7千4百万円増加し、40億7千2百万円となりました。その主な要因は、短期借入金2億5千8百万円の増加、賞与引当金3千2百万円の減少によるものです。

###### (固定負債)

当第1四半期会計期間末における固定負債は、前事業年度末に比べ3千1百万円減少し、25億3千5百万円となりました。その主な要因は、長期借入金1億4千6百万円の減少、社債1億1千9百万円の増加によるものです。

###### (純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産は、2億7百万円減少し、36億1千1百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金2億1千3百万円の減少によるものです。

##### ②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、主に貸付金の回収、借入金及び

社債の発行による増加がありましたが、一方で差入保証金の支出、有形固定資産の取得及び前事業年度決算に係る配当金の支払いもあり、前事業年度末に比べ、1億9千6百万円減少し、当第1四半期会計期間末は14億2千8百万円となりました。

当第1四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれら要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期会計期間における営業活動の結果、使用した資金は1千8百万円（前年同期は2億8千7百万円の獲得）となりました。これは、主として営業収入（1億8千6百万円）と法人税等の支出（1億8千4百万円）によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期会計期間における投資活動の結果、使用した資金は3億4千9百万円（前年同期は5千1百万円の獲得）となりました。これは、主として霊園事業における営業保証金（4億1千万円）及び有形固定資産の取得（1億1百万円）による支出と貸付金の回収（1億5百万円）による収入によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期会計期間における財務活動の結果、獲得した資金は1億7千1百万円（前年同期は1億8千3百万円の使用）となりました。これは、主として社債（1億6千2百万円）及び借入金の増加（9千7百万円）と前事業年度決算に係る配当金（7千9百万円）の支出によるものです。

### （3）業績予想に関する定性的情報

当第1四半期会計期間の業績は、「経営成績に関する定性的情報」に記載のとおり、ほぼ当初予測のとおり推移しておりますので、現時点において、平成22年5月14日発表の「平成22年3月期決算短信（非連結）」で公表しました第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はございません。

## 2. その他の情報

### （1）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

1. 当第1四半期会計期間末における棚卸高に関しては、実地棚卸を省略し、前事業年度に係る実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。

2. 法人税等の納付税額の算定に当たっては、加味する加減算項目を重要なものに限定しております。繰延税金資産の回収可能性の判断にあたっては、前事業年度末以降、経営環境に著しい変化はなく、かつ一時差異の発生状況に大幅な変化がないため、前事業年度末において使用した将来の業績予測及びタックスプランニングを使用して行っております。

### （2）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

（資産除去債務に関する会計基準の適用）

当第1四半期会計期間より「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業損失及び経常損失がそれぞれ182千円増加し、税引前四半期純損失が3,384千円増加しております。

### （3）継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

### 3. 四半期財務諸表

#### (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,006,364	2,215,779
完成工事未収入金	26,390	122,956
売掛金	116,415	217,552
永代使用権	1,176,503	1,286,813
未成工事支出金	452,541	377,921
原材料及び貯蔵品	95,837	74,134
その他	340,992	312,429
貸倒引当金	△86	△22
流動資産合計	4,214,958	4,607,565
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,071,376	1,012,517
その他(純額)	632,759	622,195
有形固定資産合計	1,704,136	1,634,713
無形固定資産		
投資その他の資産	263,859	286,336
長期貸付金	894,224	996,743
壺園開発協力金	1,074,507	1,104,733
その他	2,167,123	1,752,432
貸倒引当金	△98,278	△98,118
投資その他の資産合計	4,037,576	3,755,791
固定資産合計	6,005,572	5,676,840
資産合計	10,220,531	10,284,405
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	78,363	51,751
短期借入金	807,000	549,000
1年内返済予定の長期借入金	2,018,927	2,032,350
1年内償還予定の社債	334,000	284,000
未払法人税等	1,185	192,363
賞与引当金	17,500	50,100
役員賞与引当金	3,585	—
その他	812,182	738,774
流動負債合計	4,072,743	3,898,338
固定負債		
社債	626,000	507,000
長期借入金	1,596,920	1,743,770
退職給付引当金	203,220	197,750
役員退職慰労引当金	109,555	118,271
その他	300	300
固定負債合計	2,535,995	2,567,091
負債合計	6,608,739	6,465,430

(単位:千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成22年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,306,842	1,306,842
資本剰余金	958,082	958,082
利益剰余金	1,449,199	1,663,132
自己株式	△100,930	△91,626
株主資本合計	3,613,193	3,836,430
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13,597	△705
繰延ヘッジ損益	△14,999	△16,750
評価・換算差額等合計	△1,401	△17,455
純資産合計	3,611,792	3,818,975
負債純資産合計	10,220,531	10,284,405

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
売上高	1,048,347	750,798
売上原価	357,687	293,190
売上総利益	690,659	457,607
販売費及び一般管理費	596,492	594,434
営業利益又は営業損失 (△)	94,166	△136,826
営業外収益		
受取利息	10,353	7,833
受取配当金	5,644	5,644
その他	8,524	4,386
営業外収益合計	24,522	17,863
営業外費用		
支払利息	33,332	31,660
その他	450	7,187
営業外費用合計	33,783	38,848
経常利益又は経常損失 (△)	84,905	△157,811
特別損失		
固定資産売却損	117	—
固定資産除却損	—	18,082
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	3,202
特別損失合計	117	21,284
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	84,788	△179,096
法人税、住民税及び事業税	22,399	1,995
法人税等調整額	17,303	△66,495
法人税等合計	39,702	△64,499
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	45,086	△114,596



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
営業収入	1,303,802	1,079,105
原材料又は商品の仕入れによる支出	△260,674	△242,995
人件費の支出	△315,556	△323,916
その他の営業支出	△275,932	△325,616
小計	451,638	186,576
利息及び配当金の受取額	15,937	13,623
利息の支払額	△34,520	△33,599
法人税等の支払額	△145,227	△184,860
営業活動によるキャッシュ・フロー	287,827	△18,260
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△19,213	△19,155
定期預金の払戻による収入	34,000	34,000
有形固定資産の取得による支出	△13,040	△101,451
無形固定資産の取得による支出	△1,249	△800
貸付けによる支出	△14,000	△3,500
貸付金の回収による収入	91,800	105,905
霊園開発協力金の支出	△29,344	△8,762
霊園開発協力金の回収	—	38,989
差入保証金の差入による支出	△13,050	△410,828
差入保証金の回収による収入	14,601	12,885
その他	1,391	3,239
投資活動によるキャッシュ・フロー	51,896	△349,478
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	620,000	540,000
短期借入金の返済による支出	△301,590	△282,000
長期借入れによる収入	200,000	400,000
長期借入金の返済による支出	△595,375	△560,273
社債の発行による収入	—	243,479
社債の償還による支出	△20,000	△81,000
自己株式の取得による支出	△8,216	△9,401
配当金の支払額	△78,409	△79,636
財務活動によるキャッシュ・フロー	△183,590	171,168
現金及び現金同等物に係る換算差額	49	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	156,183	△196,570
現金及び現金同等物の期首残高	1,178,974	1,625,370
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,335,157	1,428,799

（4）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。